

# 令和2年度予算を厳しくチェック 税金の使い道が決まりました

～ふるさと秦野の魅力を磨き、未来へ飛躍する予算 原案可決～

## ギカイのギモン

第1回(3月)定例会は、市の1年間の税金の使い道を決めるため「予算議会」とも言われています。



### 予算って どうやって 決まるの?

市は、新年度に向けて、1年間にどのくらいの収入が見込まれて、それをどのように使うのか計画し、予算案を作成します。

市議会は、提案された予算案が住民の立場から見て、適切かどうかを審議します。こうした市議会での審議を経て、予算案が可決されると、予算が成立します。



### 予算決算 常任委員会

委員長：木村 眞澄

議長を除く23人の委員で構成され、予算と決算に関する事項を所管しています。

### 総務分科会

座長：八尋 伸二  
副座長：福森 真司  
分科員：相原 學 露木 順三  
          山下 博己 高橋 文雄  
          諸星 光

### 文教福祉分科会

座長：谷 和雄  
副座長：野々山 静香  
分科員：古木 勝久 中村 英仁  
          佐藤 文昭 小菅 基司  
          風間 正子 横溝 泰世

### 環境都市分科会

座長：横山むらさき  
副座長：原 聡  
分科員：吉村 慶一 伊藤 大輔  
          川口 薫 大野 祐司  
          阿蘇 佳一

## 一般会計 総務分科会

### 広報宣伝費について

**問** 本市の地域資源である日本一おいしい水や水無川の桜並木などの魅力をPRするためには、小田急沿線の住民に向けた情報の発信が効果的であると考えますが、小田急電鉄株式会社との連携はどのようなか。

**答** 新宿駅のホームに設置されている電飾看板の活用や、車両出入口上部のモニターで本市の山や桜の 프로모ーション動画を再生することなどにより、情報の発信に取り組んでいる。

**要望** 本市の知名度アップに向けたシティープロモーションについて、はだの丹沢クライミングパークのオープンを一つの機会と捉え、さらなる連携強化に努めてほしい。



小田急線新宿駅に設置された電飾看板

### 普通財産管理費について

**問** 低・未利用地については、賃貸や売却などで自主財源の確保に努めるとあり、令和2年度の売り払いの目標を4億円としているが、元年度における売却の実績がない中で、目標設定が実態とかけ離れていると考えるが、どのようなか。

**答** 未利用地は、面積が広いものや境界が未確定なもの、あるいは上下水道管が敷設されたままのものなど、売却には課題もあるが、一つずつ解決しながら、財源の確保につなげていきたい。

**意見** 元年度と比べ予算が減額しているが、課題解決のためには、区画を分割するなど、宅地として売却できるように取り組むべきである。

### 収納管理費について

**問** スマートフォンアプリの導入により、場所や時間を気にせず市税などが納付できることとなるが、導入経費と期待される効果はどのようなか。

**答** 既存のシステムを利用するため、導入経費は不要となるが、1件当たり63円の利用料を市が負担することに

なる。また、納税者の利便性向上により収納率が上がり、督促状発送件数の減少につながることを期待できる。

### 都市交流事業費について

**問** 市民と行政との連携で築いてきた姉妹都市や友好都市との信頼関係は、継続することが重要であるが、今後の事業展開はどのようなか。

**答** 本市には3つの国際交流団体があり、各団体が積極的に行う活動を支援しながら、市民主体の交流事業を、団体との協働により進めていく。

**要望** 特定の人だけでなく、多くの市民が参加し、継承されるよう、各団体との連携を強化してほしい。

### 通信施設維持管理費について

**問** 外国人や障がい者との円滑なコミュニケーションを図るため、多言語音声翻訳アプリ「救急ボイストラ」を導入することだが、救急現場における具体的な運用はどのようなか。

**答** 救急隊員用のスマートフォンにインストールすることで、15言語に対応した音声と文字の翻訳が可能となり、令和2年4月に消防署西分署の救急

隊から導入を開始し、8月には全ての救急隊に導入が完了する。

**要望** 今後、外国人や障がい者への救急対応は重要となってくるため、さらなる充実に努めてほしい。



救急体制のさらなる充実を

### 資機材設置事業費について

**問** 自主防災会が防災資機材を効果的に運用できる体制を構築するため、市民提案型協働事業として採択された新規事業であるが、事業の概要と補助の見込みはどのようなか。

**答** 提案団体であるQQ防災クラブが、自主防災会に対し、救助活動に必要な資機材を格納する救命ボックスの設置などの支援を行うものであり、令和2年度は、15件程度の補助を予定している。

**要望** このように地域防災力の向上を図る事業は、自主防災会の活性化には有意義であることから、積極的に活用されるよう取り組んでほしい。